

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-082	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Harmful drinking and talking about alcohol in primary care: New Zealand population survey findings. 初期治療における有害な飲酒とアルコールの摂取について: ニュージーランドの調査より		
執筆者		
Foulds J, Wells JE, Lacey C, Adamson S, Mulder R		
掲載誌		
Acta Psychiatr Scand. 2012 Dec;126(6):434-9.		
キーワード		
飲酒関連の疾病、初期治療、飲酒同定するための試験 (AUDIT)、短い介入		
要 旨		
目的: プライマリーケアにおいて、アルコール問題について認識が低いという事をこれまでのエビデンスから示唆されている。この研究は、12 か月間にプライマリーケアにおいてアルコールについて触れることと有害な危険な飲酒 (HHD) との関係を明らかにするために一般集団において HHD の頻度を明らかにすることを目的とした。		
方法: ニュージーランドの 12,488 名の成人を調査対象とした。12 か月の飲酒は、アルコール使用でよく用いられる自己申告テスト: Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) を用いて測定されたそして、HHD は全体のスコアを 8 もしくはそれ以上とした。飲酒については自己申告とした。		
結果: HHD の頻度は 17.7% で、男性と若い集団で多くみられ、男性の 18~24 歳の年齢層で最も高く 53.6% であった。この中で 3% が過去 12 か月にプライマリーケアでアルコールについての説明があったと報告した。アルコールについて話をすることは AUDIT のスコアを増加させたが、HDD が高い若い集団では一般的でなかった。結果的に HHD の 9.4% の対象者がアルコールについて話を聞いたと報告した。		
結論: HHD は一般的だが、大部分は、プライマリケアで対応されていない。検出精度の向上は短い介入などの効果的な治療法を可能にするだろう。		